

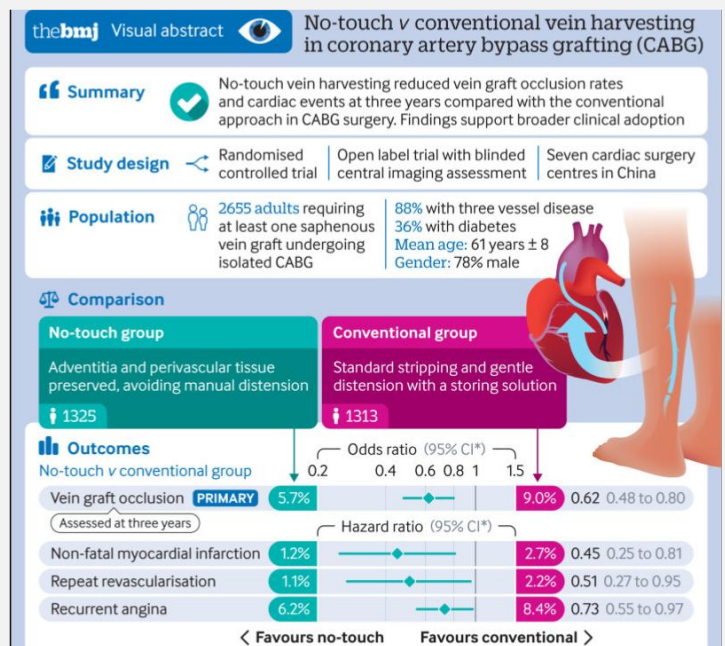


Topics ～循環器診療に役立つ、最新の話～

No-touch静脈採取法、CABGの静脈グラフト閉塞を改善

冠動脈バイパス術（CABG）では心臓へ移植するグラフトとして内胸動脈、大伏在静脈、右胃大網動脈などが選択肢として挙げられます。中でも大伏在静脈は使用性に優れ、古くから世界中で使用されているグラフトの1つです。しかし、グラフト開存率がその他のグラフトに劣っているとも言われ、その開存率が大きな課題となっております。当院では2021年よりNo-touch静脈採取法を取り入れております。これは、従来法と異なり静脈の外膜と血管周囲組織を温存し、

Vasa vasorum（脈管の脈管）の完全性と内皮機能を保持します。そのため、内皮傷害最小限に抑えられ、炎症反応が軽減されてグラフトの開存性が向上するとされています。Meice TianらのPATENCYtrialでは無作為化試験の3年間の追跡調査により、従来法と比較して大伏在静脈のNo-touch静脈採取法はCABGにおける静脈グラフトの閉塞を有意に軽減し、患者アウトカムを改善することが示されました。



Tian M, et al. BMJ. 2025;389:e082883

文責 恩賀 陽平

スタッフ紹介 Vol.40



高根沢 浩平

診療技術部長



今年度より診療技術部長としての責を拝命いたしました高根沢です。

学生時代に交通事故で右膝蓋骨粉碎骨折を経験して以降、膝が動くことを確かめに毎年雪山ヘリハビリに行っております。お蔭で、SAJ公認B級モーグルコースぐらひはこなせるようになりました。一方、年々衰える腹筋のせいで、スノーボード装着後に起き上がることが重労働になってきたことを鑑み、今後はスキーに専念・・・『目指せ！還暦モーグラー！』

過去のハートチーム通信はこちら →

